

障連協にゅーす

NPO法人

第 2 号

発行日 平成16年1月10日
 編集 NPO法人 旭川障害者連絡協議会
 発行者 鈴木 勲
 住所 旭川市宮前通東4155番地30
 障害者福祉センター
 「おびった」3F
 電話 0166-31-2226



新しい年、今年も皆さんの足となって頑張ります……職員と「おびった号」

新年あけましておめでとうございます

NPO法人

旭川障害者連絡協議会

理事長

鈴木 勲

専務理事

荒川 繁雄

常務理事
(事務局長)

工藤 フサ

常務理事

青木 利子

常務理事

佐藤 忠公

常務理事

高橋 正己

常務理事

田辺 邦夫

常務理事

平山 ヒロ

常務理事

石川 清詞

常務理事

稲垣 則子

常務理事

大橋 美智子

常務理事

篠田 良雄

常務理事

峰木 光春

常務理事

村瀬 稔幸

常務理事

富田 和信

常務理事

惣伊田 敏行

管理事務職員一同

二〇〇四年



障害者運動の新しい発展を

NPO法人 旭川障害者連絡協議会
理事長 鈴木 勲



旭川障害者各団体の皆様方、各関係者の皆様方におかれましては、よき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はNPO法人設立、旭川市障害者福祉センター「おびった」開館から1年目を迎え、知名度も向上し、利用者も増えてきました。「新神楽橋」も部分開通しており、今年4月から片側2車線の全面開通や旭川合同庁舎と青少年科学館の建設等で同センター周辺の環境整備が進んでいます。

「障害者スポーツ振興」、「障害者の日記念事業」も市から委託され活動が広がり、多忙な一年でした。これにより、市内の障害者団体の組織としての運営基盤を確立して、より協力がかつ広範な活動を展開することができるようになりました。

「おびった」のプールで練習を重ねた木本さんが日本障害者水泳連盟選手権大会で自由形で金メダルに輝いたことと、「手話サークル連絡協議会旭川三新会」に続いて、視覚障害者向けに書籍や情報紙の音声図書を作成なさっている、市民グループ「旭川朗読朋の会」がボランティア功労者を対象にした厚生労働大臣表彰を受賞しましたことを心から祝福申し上げます。

障害者を取巻く情勢は、障害者の自立と社会参加、欠格条項の撤廃、バリアフリー化などに一定の成果を見たものの、当初に目指していた、いわゆる「域内の格差の是正」という目標の達成には程遠く、格差の拡大が進んでいる現状を認めざるを得ません。完全バリアフリー化、障害者の人権保障問題、雇用・就労の問題など多くの課題を抱え残し、昨年は「新アジア太平洋障害者の10年」及び「新障害者基本計画」がスタートしました。

障害者は決して障害のない人と違った存在ではなく、社会の中に障害者が存在し、社会経済活動を行っていくことは普通の社会であり、むしろ各種の社会参加活動への参加を阻止している社会は問題です。



なお今年度2004年は、新障害者基本計画の元年にあたることから、障害者及び家族を対象とした福祉サービスの充実に向けて、一層の拡大を図りたいと考えています。

最後に、皆様にとって希望に満ちた良き年であるよう祈念いたしまして、関係各位の皆様方に、今年も一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

'2003「障連協の歩み」とフォトシリーズ-

特定非営利活動法人 旭川障害者連絡協議会定期総会

と き 平成15年6月21日(土)午後1時30分
ところ 旭川市障害者福祉センター「おびった」第1会議室

2003年度、NPO法人旭川障害者連絡協議会定期総会が、6月21日(土)、午後1時30分より、旭川障害者福祉センターで開催されました。総会次第については、鈴木勲理事長挨拶に続いて、重野健一旭川市保険福祉部長より来賓挨拶を受けました。総会出席者数確認の上、総会は成立し、議長に難病連旭川支部の近江谷守氏、議事録署名人に「障害者問題を考える会」の濱田勝夫氏、「肢体協会」の川尻朝雄氏を選出し、議事にはいりました。

議案事項

報告事項	第1号議案	平成14年度事業報告
	第2号議案	平成14年度収支報告
	第3号議案	平成14年度監査報告
審議事項	第4号議案	平成15年度事業活動方針(案)
	第5号議案	平成15年度収支予算(案)
	第6号議案	NPO法人旭川障害者連絡協議会運営機構(案)
	第7号議案	定款の一部変更について

以上について積極的な質疑応答があり、結果各議案は議決されました。

特に今回は旭川市より「旭川障害者スポーツ教室」「旭川障害者スポーツフェスタ」「旭川市障害者球技大会」「旭川市障害者の日記念事業」等の事業を新たに委託された為、活発な議論が交わされました。又、富田和信、惣伊田敏行両監査による詳細かつ適正な監査報告がなされました。閉会挨拶は、荒川繁雄専務理事が行いました。尚、総会終了後、会場を近くのレストランに移し、各団体参加による交流会が6月のさわやかな夕べに開かれました。



2003年6月21日(土)旭川障害者連絡協議会定期総会

平成15年度 旭川市障害者スポーツフェスタ

と き 平成15年7月21日(月)午前9時30分
ところ 旭川市大雪アリーナ(旭川市神楽4条7丁目)
主 催 旭川市
事業実施者 NPO旭川障害者連絡協議会
旭川市障害者スポーツフェスタ実行委員会

大会スローガン

“風かおる大地に集う今日の日が
ぬくもりかよう豊かな街に
育てて行こう福祉の輪”

平成15年度旭川障害者スポーツフェスタについて報告します。お天気にめぐまれた7月21日(日)大雪アリーナにおいて開催されました。毎年開かれるこのスポーツフェスタは旭川市が主催ですが、今年のフェスタはちょっと…。イヤ!大きく違う。それは、旭川市の委託で障連協が実施した事と、精神障害者が新しく加わった事です。私達が活動で「用意された所へいく」時代から、「自分達で作りあげていく」時代になってきたのではないのでしょうか。当日は、大きな事故もなく、無事終了した裏には、この日のために仕事を終えたあとで集まり、準備をして下さった実行委員の皆さんとボランティアの方々の苦勞のたまものです。

当日は、早朝7時から集合した用具係。8時から集まった各種担当の方々、皆さんハツラツと動いており、私達も久しぶりに若い人の中で1日をすごして、気分も若やぎました。

プログラムは、午前8種目、午後6種目、皆さん、それぞれ能力をフル回転して参加してくれました。勝ち負けの他に“記録に挑戦”もあり、結果が良くても悪くても笑顔のうず。勝ち負けでは、綱引きの勝敗がなかなかつかず、大いにもりあがりました。参加者総数は、名簿によりますと約330名中、ボランティア20数名。ボランティアは、一般の方、教育大学の学生さん、福祉専門学校の学生の皆様達でした。お昼の休憩時間に、天翔龍心の皆さんによる「YOSAKOI」も、この日の目玉でした。多くの方々の努力で楽しく1日をすごさせていただきました。当日参加者の声を以下に紹介いたします。

(大橋 美智子)

*インタビュー

今回から精神の方々も参加できるようになってよ

かった。旭川市主催ではできななかったが、NPO法人になって実現した成功の一つでしょう。

学生です。はじめての参加ですが、障害を持つ方々と話す機会がなかったので親しく話せて良かった。と一緒にスポーツを楽しめました。

スポーツフェスタの写真集



No	写真の内容紹介
1	大会会場となった大雪アリーナ
2	開会宣言をする田辺邦夫実行委員長
3	さぁー頑張れ！頑張れ！力の入った楽しい綱引き



平成15年度旭川市障害者球技大会

と き：平成15年11月30日(日)午前10時
 ところ：旭川市障害者福祉センター「おびった」
 (旭川市宮前東4155番地30)
 主 催：旭川市・旭川市障害者球技大会実行委員会

「おびった」の体育館に於いて、平成15年度の障害者球技大会が開催されました。卓球・ボッチャ・サウンドテーブルテニスなど選手は皆、日頃の練習の成果を存分に発揮しておりました。又、公開競技として開催された「フライングディスク」にも多くの人が参加しました。各競技の成績は以下の通りです。

サウンドテーブルテニス

優 勝 池田 康男	(旭川盲人福祉協会)
準優 勝 加藤 健二	(旭川盲人福祉協会)
3 位 太田 順子	(旭川盲人福祉協会)

卓球の部

上肢体幹	優 勝	桐越 好	(個人)
	準優勝	小林 勝悦	(身障協会)
下 肢	優 勝	吉田 千寿	(個人)
	準優勝	川尻 朝雄	(身障協会)
	三 位	大西 広明	(旭川リハビリ友の会)
聴 覚	優 勝	池田 博道	(旭川ろうあ協会)
車 イ ス	優 勝	幾島 昭浩	(個人)
弱 視	優 勝	川村 剛秀	(個人)
	準優勝	工藤真由美	(旭川盲人福祉協会)
知	優 勝	坂東 稔	(個人)
	準優勝	岩井 聡史	(ねむのき福祉事業所)

卓球一般の部(オープン戦)

優 勝	川村 剛秀
準 優 勝	坂東 稔
3 位	吉田 千寿
3 位	桐越 好

ボッチャの部(36チーム)

優 勝 チ ー ム	旭川リハビリ友の会Aチーム 林上健之・加藤久美子・植東貞子
準優 勝 チ ー ム	旭川リハビリ友の会Dチーム 大西広明・岡音敏博・佐々木和子
3 位	旭川リハビリ友の会Cチーム 河内昭・井本典子・菅野尚美
3 位	肢体不自由児者父母の会Bチーム 五十嵐真幸・山田宗仁・小只悠貴

球技大会の写真は次のページに掲載されております。

球技大会の写真集



No	写真の内容紹介	
1	球技大会	開会式
2	"	卓球
3	"	ポッチャ
4	"	ボランティア学生の打合せ風景

平成15年度
旭川市「障害者の日」記念事業

<誰もが住みやすい社会の実現を目指して>

と き：平成15年12月7日(日)午後1時開会
と ころ：旭川市障害者福祉センター「おびった」体育館
旭川市宮前東4155番地30

1. 街頭啓発活動

日 時：平成15年度12月6日(土)
午後1時から2時まで

場 所：買物公園(1条7丁目 丸井今井前)

内 容：「障害者の日」と記念事業開催の周知を目的に、事業のチラシと共同作業所授産製品の配布を行う。

2. 共同作業所などパネル展示

日 時：平成15年度12月6日(土)・7日(日)
2日間 午前9時～午後9時まで

場 所：旭川市障害者福祉センター「おびった」
2階体育館

内 容：記念講演・ミニコンサート

記念講演

1. 「健康と声楽」ミニコンサート

医療法人元生会森山病院理事長 森山 領氏

2. 「障害者支援とNPO」

NPO法人地域生活支援ネットワークサロン
事務局代表 日置 真世氏

3. 共同作業所授産製品の展示即売会

日 時：平成15年12月7日(日)
午前11時から午後4時半まで

場 所：旭川市障害者福祉センター「おびった」2
階体育館

主 催：旭川市

平成15年度旭川市「障害者の日」記念事業
実行委員会

事務局：NPO法人 旭川市障害者連絡協議会
TEL 31-2226

障害者の日記念事業

今年も障害者の日12月9日が来ました。

その日を記念して毎年12月第1週の土曜日は、市内買物公園で障害者共同作業所の製品を街頭で通行中の市民に配付して障害者の日が制定されて居ることを広くPRしています。

今年から記念事業は今まで旭川市障害福祉部が中心となり、企画立案して実施してきましたが、昨年9月に我々障害者連絡協議会が北海道からNPO法

「障害者の日」記念事業の写真集

人として認可されたのを機会に、市から委託を受け我々15団体が実施する事になりました。

12月7日におびつたで「障害者の日」記念として講演とミニコンサートを開きました。

昨年と同じくらいの我々の仲間、そして協力をしてくれる一般の人が沢山来場されましたが、15団体に相当数の会員がいると思われませんが、もっともっと沢山の仲間や、会員が来て欲しいと思いました。

様々な障害を持つ人がいるわけですから、おびつた(みんなが集まる)の名の通り、沢山来て友好を分かち合って欲しいと思いました。

会場に来た仲間達の顔を見ていると、みんな楽しそうでした。講演にミニコンサートと参加者に喜んで頂けるように実行委員会、更に企画委員会では延べ8回の会議を開き当日を迎えました。車いすの委員なども含め全員一生懸命に「旭川市障害者の日」の記念事業にふさわしい企画をと頑張りました。

結果我々手で行った事業として胸を張って誇れると思っています。平成16年度も行われますので、良い意見がありましたら事務局まで連絡ください。当日はボランティアの学生26名、朝から夕方まで丸一日のご協力に感謝の気持ちを忘れてはならないと思いました。

「旭川市障害者の日」記念事業実行委員会
実行委員長 富田 和信



作業所などの活動を紹介するパネルの展示風景

毎年12月9日は「障害者の日」

1975年12月9日、第30回国連総会で「障害者の権利宣言」が決議されました。

その後、この12月9日を日本では「障害者基本法」の中で「障害者の日」と定められました。その目的は、「国民の間に広く障害者の福祉について関心と理解を深めると共に、障害者が社会、経済、文化、その他あらゆる分野に積極的に参加する意欲を高めるため、障害者の日を設ける。」とされています。



No	写真の内容紹介
1	12月6日 買物公園街頭啓発風景
2	" 買物公園街頭啓発風景
3	12月7日 「障害者の日」記念事業 富田 和信実行委員長開会の挨拶
4	" 「障害者の日」記念事業講演

NPO法人 旭川障害者連絡協議会

障連協 加盟団体の動き

(社)旭川ろうあ協会

理事長 鈴木 勲

旭川市宮前通東4155番地30
TEL45-0757・FAX34-6099

活動報告

7月12日 講演会「介護保険・支援費制度」

私たちと同じ聴覚障害者である野澤克哉氏が来旭し、自ら経験した民法969条の公正証書遺言作成に手話通訳が認められるまでの経過や支援費制度のあり方などについてわかりやすく講演してくださいました。

7月26日納涼交流のつどい

毎年行われる3大行事の一つです。暑い時期でしたが、片手にビール、そして隣同士で談笑したりと和やかな一時を過ごしました。

青年部サマーキャンプ

毎年、1泊2日でキャンプを実施しています。今年は近郊の愛別町にあるオートキャンプ場で楽しみました。

婦人部ヘルシー料理教室

言葉通りヘルシーでなおかつ簡単な料理を...と少人数でありましたが料理後の食事を楽しめたようです。

サクランボ狩り

納内町にあるチェリー園でサクランボを食べながら楽しく交流を深めたようです。帰り際に「青大将に出会ったとか...！」

9月3日 手話研修センター学習会

今年秋に聴覚障害者にとって便利な設備のあるセンターが京都の嵯峨野にオープンしました。けれどもどんな設備があるか、なぜ建てる必要があるのかという問いに、学習会を設けたビデオを見ながらの説明を受けました。カンパ活動は続いています。一人でも多くのご協力を！と、今頑張っているところです。

9月28日 婦人のつどい

毎年行われるつどいで今年は法律をテーマに女性の地位や家族に関する権利など弁護士の菅沼和歌子氏をお招きし講演頂きました。難しい内容でしたが

自分を守るためにも貴重な講演会でした。

老人部旅行会

毎年、楽しみの一つである旅行会。今年は2泊3日の旅、洞爺湖へ。有珠山噴火のあとが見られる散歩道を歩きながら、自然との調和を実感した旅行会だったようです。

11月9日 青年部を救え！学習会

どこも同じような問題を抱えている会員の減少に伴いどうすれば青年会員が増え、一緒に活動できるのかなどの悩みに様々な意見が出されました。また、討論だけでなく在りし日のろうあ会館など8ミリビデオ上映会を行い、大変好評でした。

12月14日 青年部クリスマスパーティー

一番人気のあるイベントの一つです。赤ちゃんから70歳の方まで幅広く参加して下さいました。たくさんゲームや賞品など和やかなパーティーでした。

今後の予定

7月から12月までの行事はこの他にもたくさんあります。また、1月からの行事はろうあ協会三大行事の中の一つである「新年交礼会」が1月11日に、そして最後の一大イベントである「耳の日のつどい」が2月29日におびったの体育館で開かれますので、見にきてくださいね。お待ちしております。

旭川耳の日のつどい

内容：映画上映会・手話劇・親子手話体験教室・福祉機器展示・バザー他

(社)旭川身体障害者福祉協会

会長 荒川 繁雄

旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-6099

活動状況と今後の行事

(1)平成15年度通常総会 H.15.5.11

「おびった」参加者数345名(内委任状230名)

議題：平成14年度事業・収支決算報告・平成15年度事業計画(案)収支予算(案)・定款一

部変更・役員改選を行い、提出議案満場一致で可決・決定する。

- (2) 9月21日 (社)福祉協会研修旅行
参加者140名

白金望岳台より十勝岳連邦・上川平野を眺望・大雪山白金観光ホテルにて交流会を行い、温泉に浸り楽しい一日を過ごす。

- (3) 10月15日～16日

上川支庁管内町村身体障害者福祉協会役員研修会に招かれ出席する。上川町層雲峡「ホテル大雪」にて

- (イ) 講義「身体障害者福祉を巡る現在の情勢 - 支援費制度等でどう変わったか -」

上川支庁総務部社会福祉課福祉業務係
主査 金子 直弘氏

- (ロ) 活動報告

「旭川市における身体障害者組織活動の状況」

「上川管内町村における身障協会の取り組み」

「上川支庁地区身障協会の取り組み」

以上終了後、交流会を行う、出席者43名、内旭川身障協会より4名出席する

- (4) 10月18日～19日 第52回全道身体障害者福祉大会(函館大会)開催

函館市民会館 旭川より66名参加

(1日目)開会・アトラクション・全体会議・分科会(2日目)全体会議・閉会式及び表彰式を行い解散

- (5) 11月8日～9日 網走支庁地区身障者滝上分会と旭川身障協会役員研修交流会開催

滝上町「渓谷ホテル」参加者：旭川21名、滝上8名両協会の活動状況報告、後交流会を行う。

- (6) 11月15日 平成15年度表彰受賞者祝賀会開催・銀ビル・参加者91名

(社)旭川身体障害者福祉協会総会時に授賞される旭川市長表彰受賞者4名、全道身体障害者福祉協会大会に授賞される、(社)北海道身体障害者協会会長表彰受賞者3名以上7名をご招待し会員一同祝賀会を開催する。

今後の行事として恒例の(社)福祉協会の新年交流会を毎年1月最後の日曜日に開催することになっている。その他は理事会事業期間5回及び6回開催、機関誌「なかま」は年3回発行することとなっている。

*会員数 平成15年4月1日現在 総数581名
内訳(肢)438名(盲)143名



財団法人北海道難病連旭川支部

支部長 工藤 フサ

旭川市9条通7丁目左2号

TEL 24-7690/FAX 24-7908

活動報告

9月27日(土)

(財)北海道難病連旭川支部設立30周年記念
市民健康祭り「心かがやいて」の開催

場 所：旭川市障害者福祉センター「おびった」

参加者：300名

9月27日(土)旭川市障害者福祉センター「おびった」体育館において、難病連旭川支部設立30周年記念事業 市民健康祭り「心かがやいて」は300名余りの市民の参加を頂き、健康をテーマとして開催されました。テレビやラジオでおなじみの札幌五輪橋産科婦人科小児科病院理事長の丸山淳士先生に「脱パンツ健康法と生活習慣病」と題して記念講演をして頂きました。ユーモアたっぷりのお話に会場中に笑いがこぼれておりました。旭川市障害者地域共同作業所連絡協議会の8作業所も作品販売で参加して頂き、また会員からの協賛で「大根」「カボチャ」「ジャガイモ」の大特価特設コーナーは大好評となりました。健康をテーマとして企画されたこの事業に食の安心と安全を第一に考える生産者の集まりである「当麻有機農業を考える会」の皆さんに協力して頂き「健康野菜市」を出店して頂きました。丹誠を込めて生産された野菜に大きな注目が集まっておりました。

私ども難病連旭川支部が設立30周年を迎えることが出来るのも市民の皆様のご理解とご支援があればこそであり、感謝の意を表したく企画・実施されたものです。福祉専門学校の学生ボランティア及び社協からのボランティアの皆様には会場設営から運営・後片づけとご協力頂き、本当にありがとうございました。

12月21日(日)

(財)北海道難病連旭川支部設立30周年記念
第17回チャリティークリスマスパーティーの開催

場 所：パレスホテル、参加者：300名

活動予定

2004年1月31日(土)

第106回運営委員会・旭川支部役員新年会

2004年3月6・7日(土・日)

道北地区支部役員研修会

場 所：稚内市

2004年3月10日

機関誌「なんれんあさひかわ」58号の発行

市民健康祭り「心かがやいて」



1



2



3



4

旭川アカシア会

代表 青木 利子
旭川市4条通21丁目左7号
TEL/FAX 32-7631

当会では、毎月様々な内容の例会を開催していますが、今回は特に7月、10月に実施した事業活動について報告します。第1は4月13日及び27日の一斉地方選挙時に実施した第2回投票所点検・調査の結果をまとめ、7月4日に旭川市選挙管理委員会に「要望書」として提出しました。その添付書類の概要を掲載しますが、2001年度の点検・調査時の数値より投票所のバリアフリー化が急激に進んでいることが判ります。第2は、10月19日に「おびった」で開催しました「第3回障害者医療講演会」の内容についてお知らせします。

(1)【旭川市投票所のバリアフリー化に関する調査・点検についての概要】

国民の権利の一つである参政権。障害のあるわたしたちにとって、投票所は利用しやすくなっているだろうか。

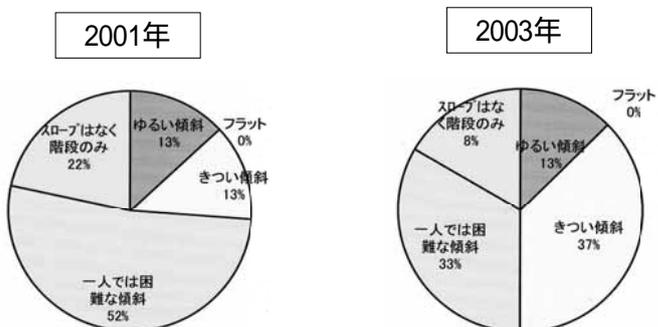
そんな思いから、会員と市民の協力を得て、2003年4月13日及び27日の一斉地方選挙でも、投票所のバリアフリー化についての、点検・調査活動を実施しました。前回は、2001年の衆議院議員選挙時に、旭川市内79カ所全ての投票所の調査・点検を実施しており、今回はその時の資料を基に、バリアフリー化未整備8カ所及び不十分と判断した30カ所について調査・点検を行いました。

点検項目や結果についての概要

2003年と2001年の投票所点検調査グラフ

入り口の状態

スロープを設置した投票所が増えたが、1人では利用しにくい傾斜のきついスロープが多かった。



インターホン

ほとんどの投票所に設置され、説明文の貼り紙もあり良かったが、設置する場所を工夫すると、より使いやすくなる投票所が多かった。例えば、階段を昇りきったところや傾斜のきついスロープの途中に

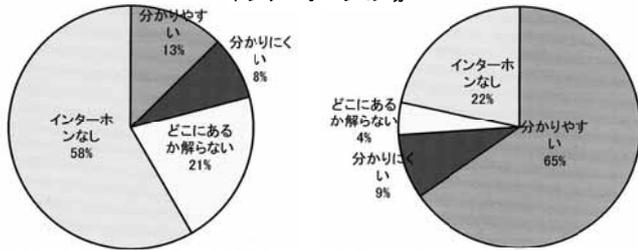
No	写真の内容紹介
1	記念講演の丸山淳士先生
2	お昼のミニコンサートの上田さんとその仲間達
3	国会請願署名をする参加者
4	旭作連の作業所の販売風景

設置してある場所があり、1人では使用しにくい。
改善の余地あり。

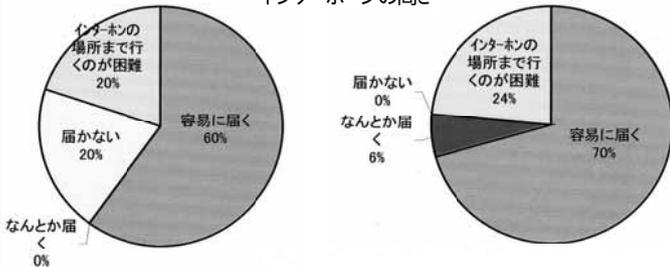
2001年

2003年

インターホンの場



インターホンの高さ

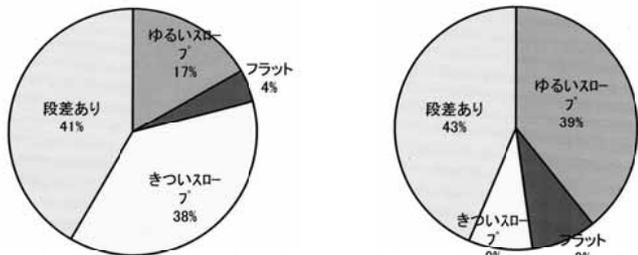


玄関の状態

入り口に比べると「段差あり」の回答が多かった。

2001年

2003年



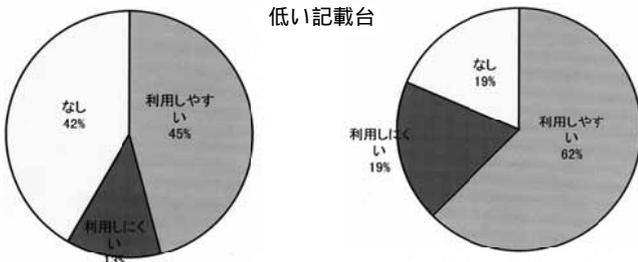
記載台

車イス対応の低い記載台は、未整備の8カ所以外は設置されていた。用紙に記入しやすいよう、文鎮の設置を要望していたが「見当たらない」との回答が多く、今後は貼り紙を用意するなどして、知らせると必要な人が使えるようになる。

2001年

2003年

低い記載台



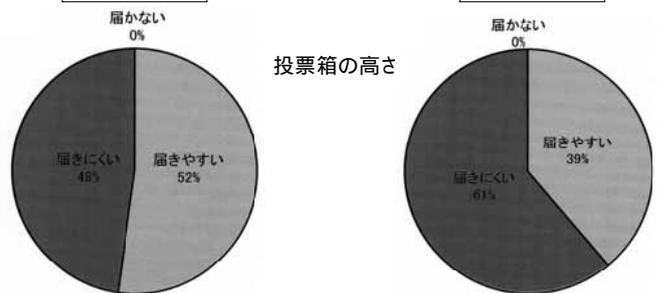
投票箱

「届きやすい」が2001年度時より減ったのは何故か。点検者の視点も影響しているのではないか。

2001年

2003年

投票箱の高さ



旭川アカシア会では、会員同士の親睦の他、「全面参加と平等」をねがい、様々な活動をしています。この点検・調査活動が、誰でも安心して投票できることにつながっていくよう、今後も改善にむけ、活動していきます。

(2) <第3回障害医療講演会>
「リハビリテーションとしてのスポーツ」

と き：2003年10月19日

と ころ：旭川市障害者福祉センター「おびった」
医療講演 「リハビリテーションとスポーツ」

～理学療法士の立場から～

講師：佐藤 貴一氏 (美幌病院リハビリテーション科)
パネルディスカッション

「出会い・成長」/ パネラー：阿部 龍雄氏

(旭川障害者スポーツ協会指導部長)

「楽しく・強く・カッコよく」/ パネラー：永瀬 充氏
(パラリンピックアイスレジャ日本代表)

「水泳との出会いから」/ パネラー：滝口 麻智子氏
(日本赤十字社旭川水安パトロール所属)

3回目になる今年は「リハビリテーションとしてのスポーツ」と題して現状の障害を維持するためにどんなスポーツが適しているのかなどについて、理学療法士の佐藤貴一先生に講演をしていただきました。

ご自身車いすバスケットの一員でもあり、今また四肢麻痺の人のための車いすラグビーを広めたいと月1回旭川の「おびった」にも練習に来て下さっている大変熱心な先生です。

『無い物を数えるのではなくあるものを最大限に生かす』『生活を彩る活動・スポーツを通して新しい友人と出会い新しい発見がある』『疲れを残さない程度の運動量は障害の現状維持につながり、また色々な種類のスポーツをする事はいつもと違う筋肉

を使うようになる。』『スポーツを楽しんだ後には(クーリング・ダウン)疲れを翌日に残さず完全に回復することが大切である。』などなど実体験に基づいた貴重なお話を聞くことが出来ました。

パネラーの阿部さんにはスポーツ指導をしていくなかで共に成長してゆく喜び、永瀬さんにはカナダ留学中、生活の中にスポーツが自然に入っている肩に力を入れずスポーツを楽しむ事を今後旭川の障害のある人達に広めたいという希望。溝口さんからはあかしあ水泳サークルの指導者となって様々な障害者をもつ人達と関わっていく中で、障害を知って初めて一人一人に合った指導が出来るようになったという手ごたえを聞きました。

最後の質疑応答の中で、7年前にリュウマチを患った女性から「もうスポーツは出来ないものと諦めていたけれど、私にもまたスポーツが出来そう」障害児の親の会の方からは「もっと子供たちにプールやボッチャ等させたい。障害者スポーツの指導に携わってくださっている皆さんに感謝しています」とうれしい意見が出されました。この講演会を通じていろいろな障害に合ったスポーツがこの「おびった」で体験出来ること等、多くの事を知ることが出来た貴重な講演会でした。

障害者問題を考える会

代表 中野 章

旭川市5条通10丁目コミュニティセンターふれあい内
TEL/FAX 24-4971

15年度上期は、慢性化する財政難を克服し、経費の面の安定化を図りながら、当会活動の柱ともいえる「ふれあい号」運行の充実や広報「この指とまれ」の毎月一回、継続発行など内容の充実を目標に進めて来ました。

その歩みは、どれをとっても決して早くはありませんが、確実に前進しています。

一方、高齢化社会の進展、経済不況があいまって社会全体が行き詰まっている今日、障害者や高齢者の生活は更に厳しさを増し、当会の「ふれあい号」にも新たに利用を希望する会員が増えています。

社会情勢が厳しくなるほど市民団体やボランティアなどの活動が求められますが、市民の寄付や募金が収入の大部分を占める当会の財政は、一向に好転の兆しが見えません。

そんな中で、「15年度・日本財団福祉車輛寄贈事業」による車輛の寄贈決定との朗報が届きました。この朗報が今後の当会活動好転のきっかけとエネルギーにしたいと思っています。(佐藤 忠公)

旭川身体障害者肢体福祉協会

会長 川尻 朝雄

旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-6099

当会は(社)旭川身体障害者福祉協会の下部組織として協会及び市(障連協)主催の事業に積極的に参加するとともに、独自の主な行事としては、4月に定期総会、6月に施設見学会研修会員交流旅行、10月に市民参加の「ふれあい広場」、12月に会員交流会を実施しています。また各地区10分会でも各自行事を企画実行しています。

なかでも、去る10月26日に実施した「ふれあい広場」事業は、身体障害者と市民が共生していく地域社会作りを目的として、市及び社会福祉協議会の後援のもとに実施しています。

事業内容は、市民参加の歌謡ショー、参加者全員によるふれあい盆踊り、お楽しみ抽選会のほか障害者問題相談会、共同作業所作品の展示即売会、福祉機器・介護用品の展示及び車いす体験試乗会も行っています。

今年は「おびった」利用の市民の方、障連協、施設の方達の参加もあり、予定を超えた230人(会場によるプログラム配付枚数による)もの方の参加となり嬉しい悲鳴をあげました。皆様方のご協力に厚く感謝申し上げます。

旭川車イスの会

代表 田辺 邦夫

旭川市永山6条4丁目14番7号
TEL 48-0929

旭川車イスの会、最大のイベント行事「第22回道北車椅子スポーツ大会」が11月2日(日曜日)旭川市障害者福祉センター「おびった」で開催されました。遠く札幌・岩見沢・土別市の車いすの仲間7名を含む75名の参加者があり、車椅子バスケット・ミニバレーに汗を流した。また、昨年度より旭川市社会福祉協議会の事業「ボランティア・福祉・何でも体験」と連携し、ボランティアに関心のある多くの一般市民が参加したことも大きな成果だった。



旭川肢体不自由児者父母の会
 会長 平山 ひろ子
 (自宅) 旭川市神楽岡9条4丁目6-10
 TEL・FAX 65 - 3597/TEL・FAX 33 - 5940(おびった)

旭川精神障害者家族連合会
 会長 石川 清詞
 旭川市神楽2条4丁目1-12旭川フレンドハウス内
 TEL 63 - 2331

夏のレクリエーション

7月6日(日)午後10時より、神楽岡公園にて、お天気にも恵まれ、学生ボランティアの皆さんと、自然あふれる公園内を散歩、又、ゲーム大会などをし、昼食にはジンギスカンを皆で囲み、楽しい一時を過ごしました。

チャリティービールパーティー

7月12日(土)午後6時より、北洋ビル8階にて、生バンド演奏、ピンゴ大会、抽選会等を行い、多くの方々のご支援、ご協力を賜りまして終了致しました。

愛のえのぐ販売

収益事業として、各小学校のご理解、ご支援、ご協力を仰ぎながら、絵の具、えんぴつ、ボールペンの販売をしました。

療育キャンプ

8月7日(木)～8日(金)白老町虎杖浜温泉ホテルビュラメールにて、訓練士による機能回復訓練、医師による療育相談、睡眠障害をテーマとした勉強等、楽しくも充実した1泊2日となりました。

全国・全道福祉大会への参加

9月27日(木)～28日(日)釧路市観光国際交流センターにて行われました大会に参加し、父母会からは、10項目の大会決議案を提出したところ「障害者児童を抱える保護者の子育て支援事業として、学童保育の実施並びに地域校、地域社会との交流促進を図ること」を大会決議文として取り上げられ、大会にて決議されました。

チャリティーダンスパーティー

11月15日(土)午後6時30分より北洋ビル8階にて、これも又多くの方々のご支援、ご協力を賜りまして終了いたしました。抽選会、今年は生バンド演奏もあり楽しいダンスパーティーとなりました。

英会話スクール、水泳(プールの専用利用)

週に一度(土曜日)おびったにて行っています。プールの専用利用は、冬期間はお休みしています。

旭川肢体不自由児父母の会のこれからの活動としては、引き続き週に一度の英会話スクール、12月に肢体不自由者成人式祝賀会を予定しています。



活動報告

第13回ふれあい交流チャリティー茶会

6月29日西武百貨店旭川店A館7階において、市民各位の暖かいご支援により盛会に終了させて頂きました。作業所の作品販売も同時に致しまして、収益金は作業所の運営費に充当しました。

7月26日旭家連の家族研修会を旭川市民文化会館において、障害者が地域社会で自立するための支援サービス利用、その行為を法的に援助する制度や相続遺言などの知識を得る為に3人の講師の方をお願いをして勉強会を開催。

地域福祉権利擁護事業について

成年後見制度について

相続遺言について

9月20日、第29回道北地域精神障害者家族大会、旭川障害者福祉センターおびったにおいて、北海道精神障害者家族連合道北地域協議会の主催となり、開催大会テーマ「みんなで考えよう精神障害者の医療と生活」

(1) 講演「最近の精神科医療と家族や地域社会に望む事」と題して医療法人順真会メイプル病院：相澤裕二先生

(2) 地域の実情としてお二人の講師のお話
 精神障害者居宅介護事業等(ホームヘルプサービス)について法施行前からモデル事業として取り組んでいる名寄市の状況
 精神障害者地域生活支援事業(グループホーム)について早くから本事業を活用している富良野市の状況

第8回全道精神障害者回復者スポーツ大会開催

開催趣旨精神障害者・回復者の社会参加は、障害に対する社会的偏見、誤解の理由もあってかなり制約を受ける傾向にあるのが実情であります。スポーツ大会並びにそれに伴う交流前夜祭に参加する事になり、障害者の仲間意識が育ち、障害を克服し勇気を持って生きて行く実感を味わう契機となります。更にリハビリテーションの一環にもなり参加後の生活状況の改善に大きな効果が現れます。社会参加を積極的に推進する上で必要な社会適応訓練の実践の場をスポーツを通じて提供する事もねらいとしています。予想される成果として例えばスポーツ大会を通じて社会一般の人達が享受する楽しさ喜び感動等が体験される「生活の質」(QLO)の向上がもたらされます。更に参加された回復者が大会協力関係者や

ボランティアと交流する事によって精神障害者に対する正しい知識の普及啓発促進そして大会開催は、障害者の真のノーマライゼーション実現に、大きな推進力となります。

大会テーマ『ゆっくりでもいい生きて行く力を育てて行こう』8月28日交流会前夜祭

8月29日競技大会札幌市美香保体育館
競技種目卓球(個人、団体)戦、ミニバレー、ドッジボール、ソフトバレーボール

第37回北海道精神障害者家族大会10月10日交流会前夜祭麦酒館「ふぁーらいと」で10月11日「あたりまえの生活の実現を目指して」

遠軽町福祉センターで10月24日第36回全国精神障害者家族大会埼玉大会大宮ソニックシティ「彩の国からの出発」小林大会実行委員長の挨拶で始まり、大会基調講演は筑波大学名誉教授村上和雄先生プロフィール、応用生物学の世界的権威の先生と紹介されました。お話は人間の可能性を追求する講演でした。

旭川市地域共同作業所連絡協議会

会長 稲垣 則子
旭川市8条通18丁目右3号
TEL 45-0700

旭川市地域共同作業所連絡協議会(旭作連)は年間を通して事業や活動を行っています。

本年も7月21日には福祉施設見学として「旭川ねむの木の間」の見学、昼食を挟んで旭山動物園見物を行いました。

8月8日には障害福祉課・市保健所の作業所担当者との意見交換会を開催し、作業所側からは主に補助金に関する要望等が出されました。

10月17日には指導員研究会が開催され札幌市にある「ひかり福祉会」より佐治施設長をお招きし「無認可作業所から法定施設へ」という演題で講演をして頂き後半では、色々質問も出され充実した内容となりました。

これからの予定としては1月の新年会、2月には今年度2回目の指導員研究会が予定されています。

旭川中途難失聴者協会

会長 大江 登美子
旭川市錦町18丁目
TEL/FAX 51-8937

活動報告

言葉の伝達を文字に頼っている我が協会では、市の委託を受けて毎年「旭川要約筆記を学ぶ会」を実施

しています。

今年度は7月1日～10月21日迄、15回に分けたカリキュラムで実施しました。

この「学ぶ会」は、今年度で16回目です。

16年前の第1回目は、3時間で1日で終わりました。現在は30時間に増えていますが、まだ不足です。

この要約筆記は1999年に、厚生省が正式に係わり、カリキュラムが通達されました。これは聴覚障害者のコミュニケーション手段は「手話だけではない」という常識が、やっと国に理解されてきた証でしょう。

今年のビックニュースは、日常生活用具等給付事業に、聴覚障害者情報受信装置「アイ・トラゴン」が加わる事となり、旭川市では15年11月より給付の受付が始まりました。

この装置は、「目で聞くテレビ」「リアルタイム字幕及び手話の受信」「災害時の緊急事業」等に対応出来るものです。

この災害時緊急情報の装置は、障害に関係なく必要なもので「おびった」にも是非設置してもらいたいと思います。
(大橋 美智子)

旭川リハビリ友の会

会長 林上 健之
旭川市宮前通東4115番地30
TEL/FAX 34-6099

平成14年に「おびった」が開設されてから、2年目の新たな年を迎えて、月日の経つのは、流れ星のごとく感じる今日この頃でございます。リハビリ友の会も結成されて以来30年、昨年2月に記念事業も、お陰をもちまして滞りなく終えさせて頂きました。長年に解り今日まで築き上げた諸先輩から、感謝お礼を申し上げ、今後も諸先輩に恥じない友の会の構築に最前の努力をする覚悟であります。

「おびった」オープン以来、人と人の触れ合いが多いことから、一気に50名近く会員が増えました、嬉しい悲鳴であります。年間行事12回の月例会は研修旅行をはじめ、札幌・千歳各地の同じ病に負けずに励んでおられる方々と交流を重ねて、意見の交換を重視して会員と共に歩んでおります。又、年間行事にはプロジェクトチームを設けて、会員の皆様よりアンケートを取り、会員中心の年間行事を計画しております。

活動報告

新年恒礼会から始まり、健康相談・定期総会・彫刻美術館・井上靖記念館・博物館見学・近郊の温泉・秋のジンギスカンパーティー・自然を満喫するため

野山を散策・世界綿羊牧場見学・動物の触れ合い・イチゴ狩り・りんご狩りなどの月例会を行っています。

「おびった」の行き届いた設備に幸いして、サークル活動も週1度の水泳・カラオケと楽しい一日を過ごさせて頂いております。又、恒例になっております数々のスポーツ大会、「ふれあい広場」など盛り沢山の催しを楽しんでおります。主催する役員の皆様にご心労を心から感謝を致しております。

私共リハビリ友の会一同は、新しい年を迎えるにあたって「障連協」の一員として、これからは今までの経験を大切に、今までの体験を土台として皆様に親しまれる喜ばれる会作りに、惜しまない努力を微力ながら進めて行く所存であります。どうか皆様方の心からなるご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、「障連協」と共にリハビリ友の会の発展を、衷心より記念して止まない次第であります。

(事務局長 小林 秀基)

社団法人 旭川手をつなぐ育成会

会長 峰木 光春

旭川市2条通9丁目左4号 山口ビル5階
TEL 25-2120

知的障害者はグループホームや自宅から、作業所や工場に通ったり、スポーツに親しむ機会も増えていますが、街で安心して暮らせるように市民の理解を得ることが大切です。事故やトラブルに巻き込まれないように、障害者の性格や行動を知ってもらう事が必要です。その為に障害者の特性をイラストにして作ったパンフを警察署との懇談会で、市内近郊の交番に配付していただけるようになりました。今後、コンビニ、デパートや交通機関にもお願いしようと考えています。

今年は多忙を極める年で、措置費から支援費制度に変わりましたが、支援費はどんなサービスがあるのか、どんな業者がいるか等をテーマに、今年春以来6回のセミナーを開催しましたが、各回とも70名を超える参加者でした。その他、福祉施設、作業所と共にセーフティーネット会議を設置し、道北一円の職業自立セミナーも開催しました。また、作業所建設に当て、市や国に提携する申請者など多忙な年でありました。その中で理事や運営委員、そして事務職2名の方が毎晩遅くまで事務室で作業をしてきたことが、組織の弱体化が叫ばれている現今にあって、どこにこんなパワーがあるのか驚いている次第です。障害者の自立を求められている時代にきつと道は拓けるものと考えています。

旭川盲人福祉協会

会長 村瀬 稔幸

旭川市宮前通東4155番地30
TEL・FAX34-6099

活動報告

6月22日 札幌市身体障害者福祉センターにおいて(視覚障害者)フロアバレーボール競技講習会参加

7月12日13日 小樽市において 第41回全道身体障害者夏季スポーツ大会

陸上、水泳、サウンドテーブルテニス(盲人卓球)、フロアバレーボール合競技に多数参加

7月21日 旭川市大雪アリーナにおいて 旭川市障害者スポーツフェスタに多数参加

7月28日 当盲協会主催の施設見学及びレクリエーションに約40名参加(土別綿羊牧場 日向温泉)

9月14日 旭川彫刻美術館主催による、野外彫刻像手で触る鑑賞会に当会員約25名参加

9月14日15日 札幌市厚別総合体育館 白石総合体育館、2会場にて全国フロアバレーボール大会に3名の選手派遣

9月15日 旭光園(養護盲老人ホーム)に敬老慰問、各サークル代表者約30名参加

10月5日 札幌市「かでの2.7」において 道視連主催、全道視力障害者福祉研修大会に約30名参加

11月3日 当盲協会主催 文化祭(文化講演会各サークル発表会等)約60数名参加

11月29日30日 当盲協会主催 施設見学、研修、忘年会参加約40名(下川五味温泉)

11月30日 旭川市「おびった」において旭川市障害者卓球大会約10名参加

12月6日7日 旭川市「おびった」において障害者の日記念事業に約30名参加

12月14日 当盲協会主催 年忘れボーリング大会開催約30名参加(合同ハニーレーン)

16年1月以降の予定

1月11日 旭川盲人福祉協会新年交礼会

1月25日 社団法人旭川身体障害者福祉協会新年交礼会

2月14日15日 全道身体障害者冬季スポーツ大会に参加(栗山町)

2月7日 北海道障害者スポーツ振興協会の要請により夏季スポーツ大会に向けてサウンドテーブルテニス、フロアバレーボール競技の審判員養成講習会に参加

常務理事会の各部会活動報告

事業部

担当常務理事：佐藤 忠公

NPO法人「旭川障害者連絡協議会」の事業部を任されてから、1年3ヶ月が経過しました。全てが始めての経験であり、毎日試行錯誤を繰り返しながら、またまわりの皆様にも支えられながら今日に至りました。

事業部としては、障害者福祉センター「おびった」のオープンを機に、障害者の就労機会の拡大を目指し、NPO法人旭川障害者連絡協議会が旭川市より委託を受けた「おびった」の管理運営事業では、全面的に障害を持つ当事者の中から職員を採用して業務の遂行を行なってきました。このことに対する一定の評価が出されるまでは、今しばらく時間を待たなければなりません。出来る限り高い評価を得て、今後も継続して行けるよう一層努力して行きたいと思えます。

障害者の社会参加促進や自立が叫ばれ始めてから20年以上経過した現在においても、その現状は大変厳しく、目的は達成されていません。そのような中で、旭川市が今回採ったこの方式は、障害者の自立と社会参加の促進を図ると共に、行政と市民の協働による街作りを進める点からも高く評価されると思えます。

また本年度より、従来、障害者の社会参加促進の一環として市が自ら行ってきた「障害者スポーツフェスタ」、「障害者球技大会」「障害者の日記念事業」も当会が委託を受け実施することになりました。これまで各事業には、実行委員会の一員としての関わりはして来ましたが、すべて自分たちで実施するのは初めての経験であり、何かと戸惑うことが多々ありましたが、なんとか多くの方々のご協力を得ながらも、無事3事業すべてを終了することが出来ました。ご協力頂いた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

今後は更に、当事者主体で事業展開することの良さが、各事業の実施を通して現れ、より多くの方々にご理解とご協力を頂けるように関係者が一丸となって取り組んで行きたいと思えますので、尚一層のご協力をお願い致します。

スポーツ・文化部

担当常務理事：田辺 邦夫

7月21日(月曜日 振替休日)今年度より市からの委託事業としてスポーツフェスタが大雪アリーナで実施された。例年、スポーツフェスタは旭川市の実施主体事業であり、障害を持つ当事者は参加することに重点をおいていた。しかし、本年度より障連協が委託事業として取り組み、障連協メンバーによる実行委員会を立ち上げ試行錯誤の末330名の参加を仰ぎ、反省すべき点は多かったが、まずは無事終了したことをご報告致します。初の試みであったが、実行委員メンバーが多忙の中それぞれの役割を果たしてくれたことが成功につながったとともに大きな自信になったと思う。また、水泳教室・ボッチャ教室も無事終了したことを合わせてご報告致します。

また、次の委託事業となる、11月30日(日曜日)旭川市身体障害者球技大会、12月6・7日(土・日曜日)旭川市障害者の日記念事業、開催においても実行委員を中心とし企画・運営等を実施し盛会のうちに無事終了することができました。

広報部

担当常務理事：青木 利子

創刊号は6月10日に1500部発行しました。広報部員4人とも初めて手がける事業で、手さぐり状態でしたが、「かがやき工房」の印刷担当者の方々のアドバイスを受け助けられました。2号は12月10日発行の予定でしたが理事会決議で、「新年号を発行しなくては」という意見があり、2004年1月10日発行と発行日を変更しました。今後は年2回、1月と7月刊行になります。



NPO法人とは!!

第2弾

NPO全国フォーラム2003北海道大会開催

開催日:2003年9月13日・14日 場所:札幌市(札幌コンベンションセンター)

NPO全国フォーラムを振り返って

旭川障害者連絡協議会 監事 惣伊田 敏行
(旭川NPOサポートセンター理事)

北海道で初のNPO全国フォーラムが2003年9月13日、14日の2日間、オープンして間もない、札幌コンベンションセンターで開催されました。日本NPOセンター、北海道NPOサポートセンター等が中心となり、それと道内の主なNPO団体が実行委員会を組織し、旭川からは旭川NPOサポートセンターが参加し準備を進めてきました。

参加者目標は、1,000人でそれを下回ると赤字になるとのことで、積極的にPRしましたが、距離的、時間的、旅費に加え1万円の参加費ということもあり、結局は約900人の参加者で赤字になりました。赤字の穴埋めにも苦労がありました。ここでは省略。

フォーラムでは全国的に活躍しているNPOの“プロ”の方が講師になって一堂に会することは北海道では滅多にない機会でした。

初日は、オープニングフォーラム(上田札幌市長、北川前三重県知事他)から始まり、6つのセミナー、3つの基礎講座、翌14日は12の分科会、6つの基礎講座そして最後はクロージングフォーラムで締めくくりました。

私自身は実行委員として、セミナーと分科会を一つ担当したので、オープニングフォーラムや参加したい講座がたくさんあったのですが何一つ参加できなくて残念でした。他の参加者からも、“全部のセミナー、分科会参加したいのに”という「うれしい苦情」が数多くありました。

当分、北海道で開催の予定はなく、次回のフォーラムは2005年に東京であるとのことで、そのときは是非と思っています。

フォーラムの内容は、冊子になってそろそろ出ますので、有料ですが是非買い求めて、NPO法人の運営等の参考にしたいと考えています。

NPO全国フォーラム2003に参加して

旭川障害者連絡協議会 監事 富田 和信
(旭川視力障害者福祉協会事務局長)

NPO全国フォーラム2003北海道大会に参加しました。9月13日、14日2日間札幌市東札幌に今年6月オープンした大規模会議場札幌市コンベンションセンターに全国41都道府県から当初、主催者発表によると900数十名の参加があり、先ずオープニングフォーラムでは、「NPOは真の民主主義の実現の担ぎ手になりうるか」と言うテーマで上田札幌市長、北川前三重県知事、早瀬大阪ボランティア協会理事の3氏の発言があり共通点としてはNPOはこれからもっともっと行政に対して言葉を発言しなければならぬし又国民全体が選挙に深い関心を持つ必要が有るのではと感じました。

又、市長行政マンがNPOとの行動を理解しているか、市民が自分が負担納めた税金が適性に使われているか、市民が目でたしかめる必要が有ると思った。

介護保険事業は、選べる保険と言ふキャッチフレーズで発足したが現状はどうでしょうか?

北海道は開拓の地でありフロンティアスピリッツが有る民主主義では自分の事は自分で決める自治精神が大切でここしばらくは国から(金)あてがって貰って来た時代が続いたが国に金が無くなりそれが不可能になってきた。

金のない今こそ民主主義の育つ良い機会(チャンス)になると思う。

NPOとの情報交換を密に出来ると行政も良くなると思う。

全国各地で小さなNPOも地域のため土地に生活している人々のために我が身を削ってまでも努力している組織が有ると言う事も沢山知ることが出来ました。

人に与えても求める事のない人間性豊かな社会をめざして、夜のレセプションには、北海道知事高橋はるみ氏、札幌上田市長も出席し祝辞を述べNPO全国フォーラム2003北海道会議への関心の深さを知る事が出来ました。

**緊急
特集**

ゆうりょうどうろしょうがいしゃわりびきせいで
有料道路障害者割引制度の改正
てつづ あんない
及び手続きについてのご案内

**1. 改正概要**

- (1) 割引証を廃止し、新たに割引の有効期間を記載する手続きを行った身体障害者手帳又は療育手帳(以下「手帳」といいます)のみで割引適用
旧制度(割引証と手帳)での通行は、平成16年5月31日までとなりますので、平成15年12月1日以降に全ての方が新規に手続き(裏面(1)参照)を行う必要があります。

【事前の手続きについて】

- (1) 平成15年12月1日以降に手帳を管理している市町村福祉事務所等で所定の手続きを行ってください。(ETCノンストップ走行をご利用される方も同様の手続きが必要です。)

市町村福祉事務所等での審査の結果、割引の対象であると認められた場合は、手帳に割引対象自動車のナンバー、割引有効期限等を記載いたします。

料金所では、料金所係員が手帳への必要事項の記載の有無・記載内容の確認をさせていただきます。必要事項が要件を満たしていない場合や必要事項を確認させていただけなかった場合は、割引をすることができませんので、予めご了承ください。

- (2) ETCノンストップ走行をご利用しての割引を希望される方は、上記の手続きに併せて障害者割引適用のためのETC利用申請が必要となります。(ETCカード、車載器をお持ちでない方は別途事前にご用意いただく必要があります。)

ETCノンストップ走行での割引が認められた場合は、市町村福祉事務所等から証明書が発行されますので、その際に渡される所定の封筒に切手を貼付のうえ有料道路事業者が設置する窓口へ郵送してください。後日、申請された方に直接郵送でETCノンストップ走行時の割引の適用が開始される日を書面にて通知いたします。

通知する日より前にETCノンストップ走行をされると、割引が適用されず、通常料金をいただくこととなりますので、ご注意下さい。
登録されたETCカードと、登録された車載器の組み合わせ以外でのご利用では割引が受けられませんので、ご注意下さい。

【ご持参いただくもの】

障害者割引の対象となる方、対象となる自動車は現行と同様です。

対象障害者の方お一人につき、一台のみ登録できます。

車種要件等により、登録できない自動車がございます。

(法人所有車両、レンタカー、タクシー、軽トラック及び代車等)

【ご利用までの流れ】**2. 改正時期**

- (1) 手帳のみで割引適用

- (2) ETCノンストップ走行時の割引適用・・・平成15年1月20日(火)～

(1)(2)に伴う市町村福祉事務所等での手続きの受付開始は、平成15年12月1日(月)からです。

(2)は、市町村福祉事務所等での手続きを行った後、有料道路事業者が設置する窓口への事前登録が必要となります。

本州四国連絡橋公団については、平成15年度末を目途にETCノンストップ走行のための整備を検討しており、整備と同時に身体障害者等のETC利用時のノンストップ走行化を開始する予定です



スクラップ

委託事業がさらに拡大

水浴訓練室の利用が高いが、こうした施設利用の際、さらに利用者が憩いの場として利用する喫茶コーナーなどで健常者と障害者が交流を深める姿が多く見られるのをはじめ、障害者と健常者との共存について学ぼうと小・中学生が見学、研修に訪れる機会が多いという。

今年6月末、同センターは開設1年を迎えた。スタート当初は「障害者専用の施設」という印象が強かったために健常者の利用が少なく入込数が予想数を下回ったものの、市民へのPRが浸透するとともに利用者数が増加。昨年のオープンから今年5月末までの利用者数は8万1521人（障害者4万2458人、健常者3万9063人）と好調な入込数を記録した。

同センターの施設運営には、旭川市内の15の障害者団体が結成した民間非営利団体（NPO）法人が旭川市から委託を受ける形で参加しており昨年度は委託事業として施設の管理事務とシャトルバスの運営に携わった。今年度からはさらに各種スポーツ事業をはじめ水浴訓練室の管理やごみ収集などもスタートし、事業費は前年度の約4倍の約7千万円強にのぼる見込みだ。

また同センターは、長引く不況で厳しさに拍車をかけている障害者雇用の場としての機能も備えており、センターの事務職員のうち6名が障害者。今回の委託事業の拡大でさらに障害者の自立を目指すという。さらに今年度は利用者から届いた要望をもとに施設整備も行っていく予定だ。「障害者から最も多かった声はウォッシュレットの設置。さらにプールの3コース目に手すりをつけられていないので、その設置要望もあります」（同センター）

交通のアクセスについても現在、シャトルバス1台が市内中心部を1時間おきに運行しているだけのため、運行路線の拡大と、さらに民間バスの運行を希望する声が高まっている。2年目を迎えた旭川初の障害者施設。健常者、障害者の垣根を越えた共存の場として役割は大きい。

北海道新聞 2003年(平成15年)12月1日(月曜日)

第3種郵便物認可

2003年12月1日(月)

北海道新

障害者が球技に汗

卓球など3種目楽しむ

旭川市障害者球技大会が十一月三十日、旭川市障害者福祉センター「おびつた」で開かれた。主催は旭川市で、本年度から市内の障害者団体でつくる特定非営利活動法人の旭川障害者連絡協議会に大会運営が委託されたため、精神障害者らも参加可能となるなど門戸が広がった。

障害区分別の卓球と、聴覚を頼りに鈴の入ったボールを打ち合う「サウインド・テーブル・テニス」、先行チームが白いボールを一球投げ、両チームでそのボールに最も近くな

大会で「ポッチャ」をプレーする参加者たち



るようボールを投げる。百三十人ほどが参加。熱「ポッチャ」の三競技に戦を繰り広げた。

ブックを読む



北海道経済 2003年(平成15年)8月号掲載

健常者と障害者の共生の場を目指しオープンした旭川市障害者福祉センター「おびった」が今年6月30日で1周年を迎えた。健康相談をはじめ身体機能の訓練、スポーツやレクリエーションなどの充実した設備が評判を呼び昨年度の利用者数は8万人強。同センターでは「健常者と障害者の交流をさらに広げたい」と意欲的に取り組んでいる。



旭川障害者福祉センター「おびった」 初年度の入り込み数は好調

健常者と障害者が共生

旭川市で初めての障害者の活動拠点として誕生した旭川市障害者施設「おびった」の建設運動がスタートしたのは昭和62年。すでに建設されていたときわ市民ホール(旭川市5条通4丁目)が障害者の利用を考慮されたものだったが、実際は車イスで使用するにはトイレが狭いなど建物の構造上障害者が利用するには難しい面もあり、旭川市内の障害者団体が構成されていた「障害者団体連絡協議会」の掛け声で、障害者と健常者がともに快適に使用できる新たな施設の建設を目指す呼びかけが始まった。

同団体の熱心な運動が実を結び、平成14年度から北彩都あさひかわ事業の一環として公共施設が集まるシビックコア地区において、障害者の活動拠点を目的とする施設の建設がスタート。そして建設運動から15年を迎えた昨年6月末、本格的な障害者センターが誕生した。

施設の愛称は旭川市民から公募され、アイヌ語で「みんな」という意味を持つ「おびった」に決定。障害者も健常者も「みんな」が集い交流を深めて欲しいという願いがその愛称に込められた。

施設は鉄骨コンクリート造り4階建てで総工費は約30億円。1階にジャクジを備えた水浴訓練室、各種のリハビリ器具を備えた機能回復訓練室、2階は体育館、和室研修室や会議室、3階には供用娛樂室、調理室、音響・映像スタジオなどを備えている。

同センターの建設にあたっては、図面をひく段階から障害者団体が関与していたため、施設内には体の不自由な人に十分考慮した充実した設備が整えられている。

施設内全体が段差をなくしたバリアフリーであることはもちろん、水浴訓練室は25m×3コースの床がせり上がり水の深さを変えられるコースのほか、目の不自由な人が利用する易さにはコースの向きを音声で案内する設備が整っている。また各階に設置されている多用途トイレは移譲台つきで、さらに3階には旭川の施設では初めて人工膀胱、人工肛門を装着した人に対応したオスメトイレが設置されている。

施設内では特に体育館と



スクラップ

北海道新聞 2003年(平成15年)11月19日(水曜日)

ごみ「有料化」賛否割れる

来年度に方向性決定

リサイクル推進望む声も

イクル推進を」といった意見も寄せられた。道内自治体では、三十四市のうち、函館など十三市が既に有料化に踏み切っている。ただ、有料化により、一時的にごみ減量は進むものの、不法投棄も増えているため、専門家の間では「有料化は長期的にはごみ減量の切り札にはならない」という指摘もある。

市の市民アンケート結果

旭川市が今年七、八月に市民を対象に行った家庭ごみの減量と市民負担に関するアンケートの結果が、十八日までにまとまった。家庭ごみ処理有料化については、賛成が44%と、反対の42%をわずかに上回った。ただ、賛成意見の内訳では「料金やサービスが納得できれば」という条件付きが三分の二を占めた。市は、市民の意見を参考にしながら来年度中に有料化するかどうかの基本方針をまとめる予定だ。(上村衛)

アンケートは無作為抽出の「ごみ減量」つながり「負担が増える」22%、「企業で選んだ十八歳以上の」19%、「出す人の責」の過剰包装や使い捨て市民三千人が対象で、九任が明確になる。「ごみ容器自費が先」17%、な百四十六人(32%)が回答した。問題への関心が高まる。各18%と、ごみ減量効果に期待する声が多かった。このほか、自由記述では「市はごみ処理やリサイクルの現状などをもっと情報提供すべきだ」と「ルールを守らぬ市民に指導量の努力が報われる」21.25%、「家庭の経済的な」を「分別を増やしリサ

市環境部は「賛成意見は予想以上に多かった。有料化は市の財政難対策だけでなく、ごみ減量の狙いもある。分別体制など、ごみ処理の在り方も含めて検討する」としている。

北海道新聞 2003年(平成15年)7月22日(火曜日)

旭川で障害者フェスタ 300人がスポーツ交流



障害者スポーツの祭典「旭川市障害者スポーツフェスタ」(市主催)が二十一日、市大雪アリーナで開かれ、写真、三百人を超える参加者がスポーツを通して交流を深めた。

身障者中心の大会として毎年開かれていたが、今年から知的障害がある人などすべての障害者が参加できるように出場資格を改正した。百五十名の袋を遠くに投げる「ビーンバッグ投げ」という競技では、さまざまな障害を持つたちが力投。三十斤を超す記録を出す人もおり、会場を盛り上げた。昼休みには健常者と障害者が一緒に踊るYOSAKOIソーラングループ「天翔」が披露した。縦一・五尺、横三・三

龍心(てんしゅうりゅう)が舞を披露、交際に二役買っていた。音威子府駅にギャラリー開設

【音威子府】JR音威子府駅(東頭)にこのほど、ミニギャラリーがオープンした。写真。

従来、JRのPRスペースとして利用されていた縦一・五尺、横三・三

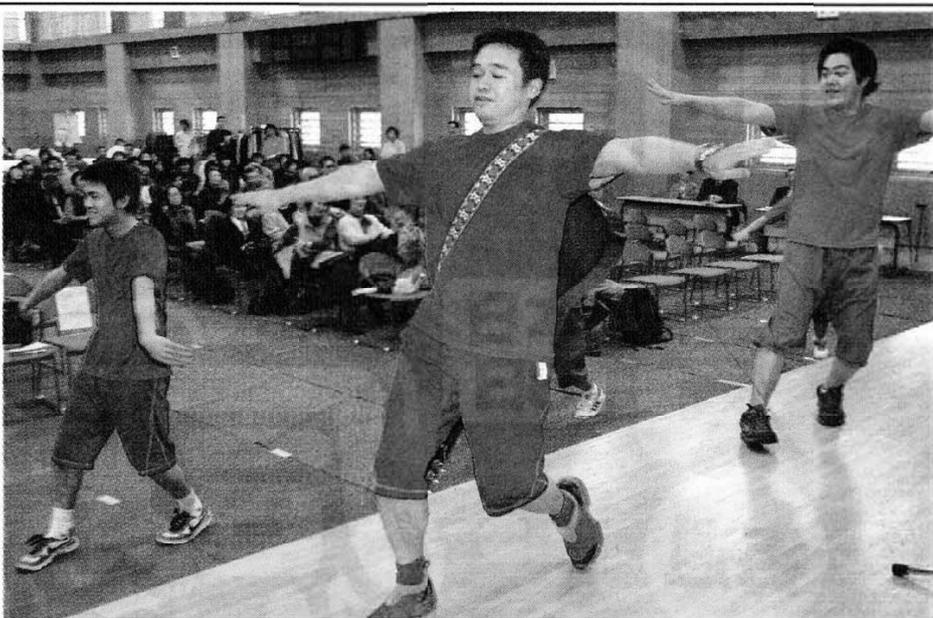
ブックを読む



2003年(平成15年)12月8日(月曜日)

北海道新聞
2003年(平成15年)12月8日(月曜日)

病院職員による「なんでだろう音頭」の踊りに、障害者も手足を動かして楽しんだ



「障害者の日」前に旭川でイベント

講演や踊り 会場和やか

九日の「障害者の日」を前に、市の記念事業が七日、旭川市障害者福祉センター「おびつた」で開かれ、健康に関する講演や障害者施設で作った製品の展示即売会に多くの人が訪れた。

(市村信子)

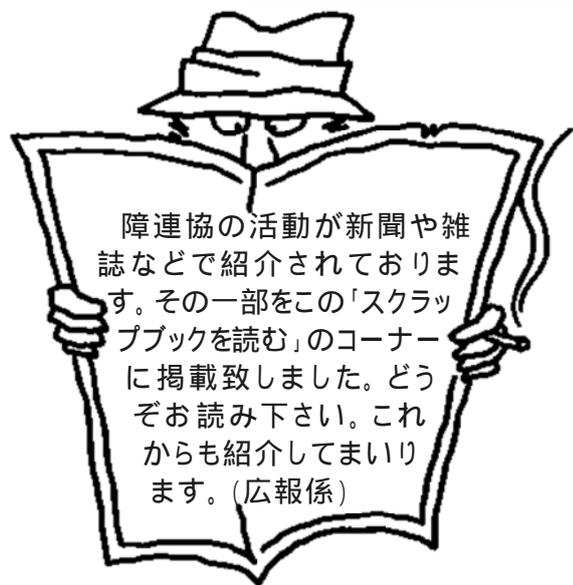
施設の作品即売も

「障害者の日」は一九七五年、国連総会で「障害者の権利宣言」が決議された日を記念して定められた。旭川市では、旭川市障害者福祉センター「おびつた」で、健康に関する講演や障害者施設で作った製品の展示即売会に多くの人が訪れた。

「障害者の日」は一九七五年、国連総会で「障害者の権利宣言」が決議された日を記念して定められた。

「なんでだろう音頭」の踊りには、来場者も手足を動かして楽しんだ。また、釧路市内で子育てと障害児(者)の支援を行うNPO法人「地域生活支援ネットワークサロン」の日置真世さんも講演。会場では手話通訳のほか、講演内容の速記をスクリーンに映し出すサービスも行われた。

展示即売会には市内の共同作業所など二十一人団体がクリスマス飾りや人形、菓子などを出品し、訪れた障害者や家族らが品定めをしていた。



障連協の活動が新聞や雑誌などで紹介されております。その一部をこの「スクラップブックを読む」のコーナーに掲載致しました。どうぞお読み下さい。これからも紹介してまいります。(広報係)

事務局だより

事務所（「おびった」3階）
〒078-8329 旭川市宮前通東4155番地30
電話・FAX 0166-31-2226



「ゴミ処理費用の適正化に関する 市民懇話会について」

市民懇話会の趣旨

1. 市民懇話会設置までの経過

本市では、平成13年3月にごみ処理基本計画を策定して、ごみ排出量の削減、リサイクル率の向上に関する数値目標を設定し、ごみの減量化とリサイクルを推進するための様々な施策に取り組んでいる。

平成14年度には、ごみの減量化・リサイクルを効果的に推進するため、市民、事業者が実践すべき事項や行政の施策に反映すべき事項について、市民から様々な意見を出してもらうため、公募の市民で構成する「ごみ減量化あさひかわ市民会議」を開催した。

本市の附属機関である旭川市廃棄物減量等推進審議会では、市民会議において出された様々な意見を踏まえた上で、今後実施すべき具体的な方策について、「ごみ減量化・リサイクルの推進に向けた当面の施策」として本市に提言が出されたところである。

審議会の提言では、推進すべき方策として、家庭のごみの減量化・リサイクルの推進が挙げられており、その中でごみ減量に努めることを促す手法として、家庭のごみの有料化について、市民の意見を把握しながら総合的に検討を進めていくべきとの提言がなされた。

このため、これまでのような税による負担がよいのか、新たに有料化を導入することがよいのかなど、家庭ごみ処理費用の負担のあり方について検討するに当たり、市民意見を把握するための一つとして、市民懇話会を開催したものである。

2. 市民懇話会の位置付け

本市が行政執行の過程において、市民の意見を把握し、その内容を行政運営の参考とするために設置するいわゆる私的諮問機関である。

3. 市民懇話会の開催経過等

市民懇話会は、公募の市民や学識経験者、学生、市民団体の代表など、26名の市民で構成され、平成15年8月から同年11月までの期間で5回の会議を開催し、意見交換を行った。

この市民懇話会にはNPO法人障連協を代表して、常務理事の青木利子が8月26日から11月27日までの間に、計5回開催された会議に出席しました。詳細については各種会議でお知らせしていきます。



事務局 反省記 日

9月13日(土)台風が近づいている朝、8時過ぎ旭川から札幌へ。目的場所はコンベンションセンター、NPO全国フォーラムが13日、14日の2日間行われるのに参加する為でした。全体会が終わり、分科会、「協働」行政、企業、地域とNPOがどのような「協働」が出来るのか、私達障連協が抱えている問題でもあり、良い勉強の機会。この分科会会場で思わぬアクシデント、ステージ場で横転、大腿骨骨頭を骨折してしまい病院へ。即手術との事でしたが旭川での手術を希望、16日まで札幌の病院で絶対安静を言い渡された。朝になり台風は一過、青空の下を白い雲が通り過ぎる早さを目で追いながら、のんびり空を見上げている場合ではないのだけれど、今は看護師さんの手を借りなければ何も出来ない自分に気付きながらも、皆に迷惑を掛ける事に心が痛み、「キズ」も傷むダブルパンチ、43日間の入院で無事退院しました。これからは気を付けて活動をしてまいります。特に段差のある所は.....。



2003年度(6月～12月) 障連協活動日誌



月	日	行事・活動	担当者	場所
6月	4日	旭川市障害者スポーツフェスタ打合せ	田辺常務理事・阿部スポーツ協会・事務局	3F事務室
	6日	障連協広報担当者会議	青木常務理事・石川理事・大橋理事	3F事務室
	10日	北海道新聞取材取材 旭川市保健所佐々木主幹来訪	事務局長対応	相談室
	12日	障連協人事担当打合せ	荒川専務理事・高橋常務理事・事務局	3F事務室
	17日	障連協監査	惣伊田監事・富田監事・事務局	相談室
	21日	障連協定期総会 障連協交流会	28名参加 19名参加	会議室 大雪の蔵
	28日	旭川市障害者スポーツフェスタ実行委員会 ろうあ協会全道体育大会開会式	田辺常務理事他7名 事務局長・平山常務理事	事務室 会議室
7月	9日	旭川市障害者スポーツフェスタ打合せ	田辺常務理事・阿部スポーツ協会	事務室
	10日	スポーツ教室(水泳)開講式	荒川専務理事・平山常務理事・事務局長	「おびった」プール
	15日	旭川市障害者スポーツフェスタ役員会	41名参加	事務室
	21日	旭川市障害者スポーツフェスタ	320名参加	大雪アリーナ
	30日	後期スポーツ教室打合せ	事務局長・阿部スポーツ協会	事務室
	31日	スポーツ教室(水泳)閉講式	鈴木理事長・事務局長	「おびった」プール
8月	6日	常務理事会	鈴木理事長 他6名参加	会議室
	7日	バス事業に関わる打合せ	事務局・管理事務職員6名	事務室
	12日	常務理事会	鈴木理事長 他6名	第3会議室
	12日	障害児デイケアスマイルプラネット代表来訪	事務局長対応	事務室
	28日	公衆衛生全道大会事例発表	事務局長	文化会館
9月	3日	障害者水泳教室開講式	荒川専務理事・事務局長	近文ふれあいプール
	5日	障連協、旭川市への要望書内容打合せ	高橋常務・平山常務・青木常務・事務局長	相談室
	7日	理事会	鈴木理事長 他14名	2F第3会議室
	7日	旭川市「障害者の日」企画委員会	富田監事 他5名	2F第3会議室
	7日	旭川市障害者球技大会打合せ	田辺常務 他5名	2F第3会議室
	11日	常務理事会	荒川専務理事 他7名	事務室
	11日	旭川市「障害者の日」企画委員会	富田監事 他5名	事務室
13日	NPO法人フォーラム全国大会	富田監事・事務局	札幌コンベンションホール	
10月	1日	障害者水泳教室閉講式	田辺常務	近文ふれあいプール
	8日	旭川市「障害者の日」企画委員会	富田監事 他6名	事務室
	10日	旭川市へ要望書提出	荒川専務理事 他4名	旭川市旭川市議会
	14日	障連協理事会	鈴木理事長 他13名	「おびった」第3会議室
	28日	常務理事会	鈴木理事長 他6名	事務室
11月	2日	障連協理事会	鈴木理事長 他13名	会議室
	14日	常務理事会	鈴木理事長 他6名	会議室
	19日	旭川市球技大会打合せ	田辺常務・阿部スポーツ協会・事務局	事務室
	21日	障連協広報委員会	富田監事 他6名 内(通訳2名)	
	27日	障連協理事会	鈴木理事長 他12名	事務室
	30日	旭川市障害者「球技大会」	210名	「おびった」体育館
12月	5日	旭川市「障害者の日」企画委員会	富田監事 他6名	事務室
	6日	旭川市「障害者の日」街頭啓発活動	富田監事 他12名	前買物公園
	7日	旭川市「障害者の日」記念事業	300名	「おびった」体育館
	10日	障連協広報委員会	富田監事 他6名 内(通訳2名)	

シャトルバス「おびった号」案内！



シャトルバス「おびった号」は障害者や難病患者の足となって、市内を巡回運転しております。お近くの乗り場からぜひご利用下さい。

シャトルバス運行時刻表

	おびった 宮前通東	叶屋茶補 前 4条18丁目	れたす 前 4条14丁目	みずほ 銀行横 4条9丁目	第2庁舎 向横 7条9丁目	市役所 前 6条9丁目	鯨六横 4条7丁目	パチンコ ジャパン前 2条7丁目	新田玩具 前 1条9丁目	興和 ホーム 前 1条14丁目	おびった 宮前通東
1	9:20	9:26	9:28	9:32	9:33	9:36	9:40	9:41	9:46	9:48	9:55
2	10:20	10:26	10:28	10:32	10:33	10:36	10:40	10:41	10:46	10:48	10:55
3	11:20	11:26	11:28	11:32	11:33	11:36	11:40	11:41	11:46	11:48	11:55
4	12:20	12:26	12:28	12:32	12:33	12:36	12:40	12:41	12:46	12:48	12:55
5	13:20	13:26	13:28	13:32	13:33	13:36	13:40	13:41	13:46	13:48	13:55
6	15:20	15:26	15:28	15:32	15:33	15:36	15:40	15:41	15:46	15:48	15:55
7	16:20	16:26	16:28	16:32	16:33	16:36	16:40	16:41	16:46	16:48	16:55
8	17:20	17:26	17:28	17:32	17:33	17:36	17:40	17:41	17:46	17:48	17:55
9	18:20	18:26	18:28	18:32	18:33	18:36	18:40	18:41	18:46	18:48	18:55
10	20:30	この便は、利用者の行き先停留所へ送り届けて帰庁します。									

《運行時間変更のお知らせ》

2004年2月3日(火)より 14時台のおびった号の運行は休止となります。
日曜日の午後からの運行は全面休止となります。尚、団体でのご利用であればおびった号は運行いたしますので、管理事務所までご連絡して下さい。

途中の停車場間での乗降はできません。 一般市民の利用はできません。
障害者及び介護者の方の専用バスとなっております。

編集後記

イラクへの自衛隊派遣が12月9日に閣議決定された。奇しくも「障害者の日」。国連が発信した「障害者の権利宣言」の中に障害者の多くは戦争によって生みだされると記されている。自分が生きていた半世紀程の日々の経過の中で、こんな不安と焦燥感はかつて覚えがない。障害をもつ私達は「戦争と平和」について鋭敏なカナリヤ。メ切日に合わせて各種行事を追いかける編集はスリルがありました。

(青木)
障連協ニュース2号発行に当たって7月のスポーツフェスタ、11月の球技大会、12月の障害者の日記念事業等、年度の大きな3つの行事が盛会に終わり記録とスナップをもとに紙面を構成しました。(富田)
2回目のニュース発行で、広報部も作業に慣れてきました。6月から年末までには、大きな行事が沢山あり、記者として、取材にカメラマンにはりきりました。

NPO法人 障連協にゅーす 第2号

発行日 / 2004年1月10日
編集 / NPO法人 旭川障害者連絡協議会
発行者 / 理事長 鈴木 勲

住所 / 旭川市宮前通東4155番地30
障害者福祉センター「おびった」3F
電話 / 0166-31-2226

印刷: 障害者地域共同作業所「かがやき工房」〒070-0039 旭川市9条通7丁目左2号 TEL 29-1294・FAX 29-1295